瀬戸市のごみ袋値上げ反対の市民運動

新婦人瀬戸支部　暮らし福祉部
原田 千育

瀬戸市がごみ袋の有料化を決めるまでの流れは、次の通りです。

2005（H17）年５月、廃棄物処理法第５条の２第１項の規定に基づく「廃棄物の減量その他その適正な処理に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な方針」（基本方針）が改正された。市町村の役割は「一般廃棄物の排出抑制や再利用の推進、排出量に応じた負担の公平化及び住民の意識改革を進めるため、一般廃棄物処理の有料化の推進を図るべき。」とされた。

【2012（H24）年】 瀬戸市は分別指導を８回、アンケートを実施した。ゴミ減量推進会議（一般市民も参加）が発足した。

【2014（H26）年】 一般廃棄物処理基本計画（H26～35）を策定した。老朽化を理由にしてエコプラザを閉鎖した。

【2018（H30）年】雑がみをミックスペーパーとする市民説明会を８回実施した。

【2019（R1）年】 粗大ごみ処理券が840円になった。

【2021（R3）年】 「瀬戸市一般廃棄物処理費用有料化基本方針」を策定した。

10月からごみ袋値上げのチラシを全家庭に配布した。市民説明会を17回実施し、意見募集をした。多数の市民がパブリックコメントに応募した。市民の中には、値上げを知らない人もいて、いきなり値段を３倍にすることに怒りが広がっていった。

【2022（R4）年】１月に結成された「有料化の前にごみ減量を実現する会」が３月議会に署名4,547筆を提出した。

３月議会では、「瀬戸市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正」が議員25名中賛成14名、反対11名で値上げ案可決し、請願は否決された。

瀬戸市は「瀬戸市一般廃棄物処理費用有料化実施計画」を策定した。10月からプラスチック容器包装の分別を開始した。

その間に市民の運動は市会議員にアンケートを取り、公表した。「明るい瀬戸市を考える会（代表高島富子）を立ち上げ、新たな署名運動を開始した。今回の署名は、市民の中に「ごみ袋値上げ反対」が浸透し、自分ごととしてとらえられた。署名を店に置いてくれるところも増え、個人で何枚も集めてくれる人もたくさんいた。駅頭やスーパーの前で、署名活動がされた。その参加者もたくさん増え、また、宣伝カーも活用された。

【2023（R5）年】「瀬戸の暮らしを考える会」が署名を集め、請願した。

「ごみ袋値上げ（ごみ処理費用有料化）を中止し、資源物の収集方法の改善を求める請願」の採択の前に、新井亜由美市議から「賛成討論」があった。
その要旨は次の通りです。

２月６日に676筆の署名とともに提出された請願が現在3,943筆となった。10月の有料化を中止し、プラごみの収集を週１回にし、燃えるごみと同じ場所にして欲しいという趣旨です。プラごみ分別とミックスペーパー分別で、可燃物は減量し、値上げをしなくても減量は進む。市民の声を聞き、値上げをしないことが市政の役割だと思う。

採択の結果は、賛成10、反対15で不採択

（値上げ）になった。あと３人の議員が賛成してくれれば、逆転でした。

４月に市長選挙があり、ごみ袋値上げ凍結を公約した候補者が当選した。新市長が６月議会にごみ袋値上げ凍結条例案を提出した。

議会や委員会の傍聴も増え、値上げ反対の民意は大いに盛り上がった。

６月13日（日）11時から市役所南河原で「集まれ！瀬戸市民」集会が行われました。約200名の市民が集まり、いろいろな視点で発言があり、盛り上がった。「市会議員に懇談を申し入れ、実現‼『本音では、袋を値上げして欲しくない。』という議員もいた。」「民意が反対と言っている。それを受け止めて決議してほしい。」など。ごみ袋値上げ反対のシュプレヒコールを市役所に聞こえるように「ごみ袋値上げSTOP！」「議会は民意を受け止めよ」と繰り返した。その日のカンパは11,680円集まった。

７月４日本会議の日、９時に市役所前に集まり、スタンディングをした。マスコミも何社か取材に来た。本会議の会場では傍聴者があふれ、ロビーでのライブ映像を見た。今回は、賛成派も反対派も複数の議員が発言し、活発な討論が繰り広げられた。採決の結果、13対12で市長の値上げ凍結条例が可決された。

民意が反映し、市議会で一度決まったことを覆すという、瀬戸市の市政では、今までにない画期的なことが実現した瞬間でした。

（了）